

最近の本県経済の動向(概況)

令和8年7月7日/商工政策課

全国	<p>◆5月「景気は、緩やかに回復しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある。」 4月「景気は、緩やかに回復しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある。」 3月「景気は、緩やかに回復しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある。」</p> <p>・個人消費は、持ち直しの動きがみられる。ただし、消費者マインドがこのところ弱い動きとなっていることに注意が必要である。 ・設備投資は、持ち直している ・輸出は、おおむね横ばいとなっている。 ・生産は、横ばいとなっている。 ・企業収益は、改善の動きがみられるが、中東情勢の影響を注視する必要がある。 ・企業の業況判断は、おおむね横ばいとなっている。ただし、先行きについてはやや慎重な見方となっており、中東情勢の影響を注視する必要がある。 ・雇用情勢は、改善の動きがみられる。 ・消費者物価は、緩やかに上昇している。</p> <p>(下線部:変更点)</p>
	<p>先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるものの、中東情勢の影響を注視する必要がある。また、金融資本市場の変動の影響などに注意する必要がある。 (月例経済報告/内閣府/令和8年5月26日)</p>
中国地方	<p>中国地域の経済は、生産は緩やかな持ち直しの動きがみられる、個人消費は緩やかな持ち直しの動きがみられる、雇用は有効求人倍率は前月に比べ低下、新規求人数は前年同月比で減少など、全体として、緩やかな持ち直しの動きがみられる。 (中国地域の経済動向/中国経済産業局/2026年5月21日)</p>
山陰地方	<p>山陰の景気は、持ち直している。 最終需要をみると、個人消費は、堅調に推移している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。設備投資は、緩やかに増加している。公共投資は、横ばい圏内で推移している。 製造業の生産は、一部に弱めの動きがみられるものの、基調としては横ばい圏内で推移している。 この間、雇用・所得環境をみると、持ち直している。 (山陰の金融経済動向/日銀松江支店/2026年5月12日)</p>
	<p>不安定な海外情勢の影響などから生産活動は弱い動きが続いているものの、投資活動は全体として概ね堅調に推移し、個人消費も上向くなど、総じて緩やかな持ち直し基調となっている。 (山陰経済動向/山陰合同銀行/2026年4月30日)</p>
島根県	<p>県内経済は、緩やかに持ち直している。個人消費は、持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、横ばいの状況にある。 (島根県の経済情勢/財務省松江財務事務所/令和8年4月22日)</p>
	<p>島根県の経済は、全体としては横ばい傾向にある。生産活動は振れを伴いながらも横ばいの動きが続いている。雇用情勢は横ばいの動きとなっている。 個人消費は持ち直しの動きに足踏みがみられる。投資動向は一部に弱い動きがみられる。 (島根県の経済動向/島根県統計調査課/令和8年3月4日)</p>

		対前年比率(*は除く)								本県に関するコメント	
		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月		
生産	鉱工業生産指数	島根県	0.0	0.2	▲10.9	4.1	12.1	4.0	14.0	—	【対前年同月比】 (3月) 鉄鋼: 12.2%、汎用・生産用・業務用機械: 9.8%、電気機械・情報通信機械: ▲4.8%、 電子部品・デバイス: 58.8%、輸送機械: 8.7%、窯業・土石: ▲14.7%、繊維: 11.0%、 木材・木製品: 2.1%、食料品・たばこ: ▲12.9%
		全国	3.8	1.6	▲2.2	2.6	2.2	0.4	2.4	—	
	機械受注(コア民需※)	全国	11.6	12.5	▲6.4	16.8	13.7	13.6	▲9.4	8.7	
投資	公共工事請負金額	島根県	▲15.5	▲4.5	4.6	72.5	▲34.4	9.3	▲33.7	▲2.0	【請負金額当月増減率】4月の件数は対前年同月は増、請負金額は減となった。 国: ▲65.0%、独立行政法人等: ▲34.7%、県: 78.7%、市町村: ▲46.2%、 その他公共的団体: ▲51.4%
		全国	100.7	99.0	89.0	98.2	95.7	96.1	102.2	100.0	
	新設住宅着工件数	島根県	38.5	▲14.5	13.3	19.5	▲31.7	17.0	60.5	▲31.0	【対前年比】 4月の総着工戸数は120戸。(持家: 4.3%、貸家: ▲58.4%、分譲住宅: ▲31.3%) 3月の総着工戸数は260戸。(持家: ▲27.5%、貸家: 321.6%、分譲住宅: 56.3%)
	全国	▲7.3	3.2	▲8.5	▲1.3	▲0.4	▲4.9	▲29.3	11.4		
消費	大型小売店販売額	島根県	3.3	5.6	6.4	2.0	▲1.5	0.6	▲0.8	—	【対前年同月比】 (3月) 衣料品: ▲7.4%、身の回り品: ▲1.4%、飲食料品: ▲0.2%、家庭用品: 9.4%、 その他の商品: ▲4.6% 食堂・喫茶: ▲17.6% (2月) 衣料品: ▲4.7%、身の回り品: 1.4%、飲食料品: 0.7%、家庭用品: ▲2.8%、 その他の商品: 4.2% 食堂・喫茶: ▲31.4%
		全国	3.4	5.1	4.9	1.4	3.0	2.1	1.5	2.4	
	乗用車(新車)販売台数 (軽乗用車含む)	島根県	▲8.2	▲4.1	▲16.9	▲3.8	6.8	▲7.0	18.2	5.4	【対前年比】 4月 乗用車: 11.7%、軽自動車: 0.3% 3月 乗用車: 41.4%、軽自動車: 3.1% 2月 乗用車: ▲18.0%、軽自動車: 2.8%
	全国	▲2.4	▲2.8	▲7.0	▲6.2	▲6.2	▲7.3	25.9	9.7		
雇用	月間有効求人倍率	島根県*	1.40	1.32	1.32	1.33	1.34	1.37	1.45	1.51	4月の月間有効求人数: 17,711人で、前月比で950人(5.7%)増加。 4月の月間有効求職者数: 11,733人で、前月比で208人(1.8%)増加。
		全国*	1.20	1.18	1.18	1.19	1.18	1.19	1.18	1.18	
	常用労働者数 (5人以上)	島根県	1.1	1.4	1.5	1.0	1.3	1.2	1.6	—	3月の常用労働者数は251,189人。一般労働者は171,660人で、パートタイム労働者は79,529人。 パートタイム労働者比率は31.7%で、前年同月と比べて0.9ポイント増。 製造業の常用労働者数は39,342人で、前年同月比0.2%減。
	全国	1.3	1.3	1.3	1.3	—	1.3	1.1	—		
	人員整理事業所数 解雇者数	島根県	60.9	▲22.9	56.5	▲21.9	▲11.9	▲10.7	▲3.1	5.7	4月の人員整理実施事業所は74事業所で、解雇者数は211人。解雇者数211人を産業別でみると、 「医療、福祉」が53人、「製造業」が41人などとなった。
	島根県	36.2	▲12.5	115.7	▲37.8	▲50.5	56.4	▲28.8	▲32.6		
金融・倒産	信用保証協会残高	島根県	▲2.66	▲2.06	▲1.29	0.22	0.95	1.94	2.95	5.22	
	県内銀行貸出金残高	島根県	2.4	2.5	2.7	2.9	2.1	2.5	—	—	
	国内銀行貸出金残高	全国	3.7	3.8	3.7	3.8	3.6	4.1	4.6	4.8	
	企業倒産/件数	島根県*	1	5	1	4	4	3	4	3.0	4月度の企業倒産件数は3件、前年同月比で件数は同数、負債総額は6億400万円減少した。前月比では件数は1件減、負債総額は1億1,700万円減少した。産業別はサービス業他で2件、小売業で1件。原因別は全て販売不振、形態別は全て破産、地区別は松江市、江津市、益田市で各1件発生した。
企業倒産/金額(億円)	島根県*	0.4	6.8	2.0	2.3	4.7	1.6	2.8	1.6		

日銀短観 (2026年4月1日) 山陰の企業短期経済 観測調査 (2026年3月調査)	業種	最近(前回)	先行き	
	全産業	12(11)	前回調査比改善(14四半期連続の「良い」超)。	8
	製造業	4(0)	前回調査比改善(6四半期振りの「良い」超)。	4
	非製造業	16(17)	前回調査比悪化(15四半期連続の「良い」超)。	10
<p>・製造業は、食料品や電気機械で受注の回復がみられることなどから、全体では、前回調査差+4%ポイント改善し「4」となった。 ・非製造業は、情報通信で人手不足による需要の取りこぼしがみられるほか、建設や電気・ガスで価格転嫁の遅れがみられることなどから、全体では、前回調査差▲1%ポイント悪化し「16」となった。 ・先行き(全産業)は、非製造業において、先行きの不透明感などから悪化を見込んでおり、全体では、最近と比べて▲4%ポイント悪化し「8」となる見通し。</p> <p>(2)売上・収益計画 ○2025年度の売上高(全産業)は、前回調査と比べて上方修正され、5年度連続の増収計画となっている。2026年度の売上高(同)は、増収計画となっている。 ○2025年度の経常利益(全産業)は、前回調査と比べて上方修正されたものの、2年度連続の減益計画となっている。2026年度の経常利益(同)は、減益計画となっている。 ○2025年度の売上高経常利益率(全産業)は、前回調査と比べて上方修正されたものの、前年度を下回る計画となっている。2026年度の売上高経常利益率(同)は、前年度を下回る計画となっている。</p> <p>(3)設備投資計画 ○2025年度の設備投資額(全産業)は、前回調査と比べて下方修正されたものの、2年度振りの増加計画となっている。2026年度の設備投資額(同)は、減少計画となっている。</p>				
松江財務事務所 (令和8年3月12日) 法人企業景気予測調査 (令和8年1~3月調査)より	<p>1. 景況判断 現状(令和8年1~3月期)の景況判断BSIは、▲14.4%ポイントと「下降」超に転じている。 先行きについては、翌期(令和8年4~6月期)は「上昇」超に転じ、翌々期(令和8年7~9月期)は「上昇」超幅が拡大する見通しとなっている。</p> <p>2. 企業収益 (1)売上高(電気・ガス・水道業及び金融業、保険業を除く) 令和7年度は、前年度比▲1.0%の減収見込みとなっている。(製造業: ▲2.4% 非製造業: 2.3%) (2)経常利益(電気・ガス・水道業及び金融業、保険業を除く) 令和7年度は、前年度比▲7.1%の減益見込みとなっている。(製造業: ▲7.6% 非製造業: ▲3.9%)</p> <p>3. 設備投資 令和7年度は、前年度比111.3%の増加見込みとなっている。(製造業: 159.4% 非製造業: 6.0%)</p> <p>4. 雇用 現状(令和8年3月末)の従業員数判断BSIは、31.4%ポイントと「不足気味」超幅が縮小している。 先行きについては、翌期(令和8年6月末)、翌々期(令和8年9月末)ともに「不足気味」超で推移する見通しとなっている。</p>			

※ 主要機械メーカーの受注額合計。機械の受注が大きいので統計ぶれの要因となる船舶・電力を除いた民需部分をコアの民需と呼び、企業の設備投資全体の先行指標となる。

【注】指標によっては季節調整値の修正等により適って指標数値が改訂されている。金融に関する指標は残高で比較している。